

謝辞

末尾になりましたが、まず、本論文に貴重なご助言・ご指摘を下された審査員の中野暁雄教授、上岡弘二教授、富盛伸夫教授、縄田鉄男教授、奴田原睦明教授に御礼申し上げます。

中野暁雄・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授には、アラビア語の方言に関する貴重な文献・資料を快くまた大量にお貸し頂きました。またアラビア語方言の演習や比較セム語学初歩の授業その他を通して、数多くのご指導を賜りました。耐え難きを耐えて、浅学非才な筆者を論文完成までお導き下さいました中野教授に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

上岡弘二・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授には、海外調査直前のお忙しい時期に草稿をお読みいただき、貴重なご助言と暖かい励ましのお言葉を頂きました。ここに感謝の意を表します。

富盛伸夫・東京外国語大学外国語学部教授には、一般言語学のお立場から厳しくも有益なご指摘・御批評を賜りました。深く感謝いたします。

縄田鉄男・東京外国語大学外国語学部教授には、特に本論文中でペルシア語やイラン諸語に関して言及した部分に関して、数々の貴重なご指摘を頂きました。厚く御礼申し上げます。

奴田原睦明・東京外国語大学外国語学部教授には、アラビア語のみならず論文中の日本語までチェックしていただきました。また長い学生生活の間、様々な面で励ましていただいて参りました。深く感謝申し上げます。

そして筆者にとって全く未知の言語だったアラビア語を文字の読み方・書き方から教えて下さり、アラブ世界・イスラーム世界へ目を開かせて下さった東京外国語大学アラビア語学科（当時、現、南・西アジア課程のアラビア語専攻コース）の牧野信也・現杏林大学教授、故内記良一教授、奴田原睦明教授、藤田進教授およびその他の諸先生方に感謝の意を表します。

エジプト留学中、筆者がカイロ・アメリカン大学に入学してから卒業するまで、長きに渡り忍耐強く親身にご指導下さった El-Said Badawi 教授（アラビア語インスティテュート長）、同じく同大学アラビア語インスティテュートにて、1年目の春学期、一対一で *an-Nahw al-Wāḍiḥ* を読んで下さり、筆者をアラビア語文法の入り口にいざなって下さった Ahmad Hoksha 先生、およびカイロ・アメリカン大学のその他の諸先生方にも厚く御礼申し上げます。

また 'Abd al-'Aḥīm Šaraf 先生（東京外国語大学元客員教授）には、エジプト滞在2年目から、ほぼ毎日のようにアラビア語の個人教授をして頂きました。またアラビア語の勉強だけでなく、その他エジプト生活のほとんど全てに渡って、数え切れないほどのお心遣いをいただきました。本論文執筆に際しても、正則アラビア語とエジプト方言について、多くのご教示を賜りました。深く感謝いたします。

筆者の細々した質問に丁寧且つ迅速に答えて下さったインフォーマントの皆さんや先生方にも御礼申し上げます。

正則アラビア語、及びエジプト方言については、‘Alā’ ad-Dīn Sulaymān さん（東京大学大学院博士課程）に、流暢な日本語でいつも丁寧に教えていただきました。

マルタ語については Simon Bezzina さん（東京大学研究生）に大変お世話になりました。筆者がいきなり送りつけたファックスや電子メールでの質問にも、必ず詳細かつ明快な回答を下さいました。

Robert R. Ratcliffe 先生（東京外国語大学南・西アジア課程専任講師）には英語に関して、いろいろとお世話になりました。また筆者のフェズ旅行に際しては、Maliḥ さん一家をご紹介頂きました。

Raḥa Maliḥ 嬢（当時高校生）及びそのご家族のみなさんには、モロッコ方言のみならず、フェズ滞りの2ヶ月間、あらゆる面で大変お世話になりました。

Wafiq Xansah 先生（東京外国語大学南・西アジア課程客員教授）にも些末で退屈な質問に快くお答えいただきました。

本論文で使用したラジオ番組（カイロ方言）の録音テープは、カイロ・アメリカン大学のアラビア語インスティテュートが、エジプト国営放送の生テープから録音して所蔵しているもので、本来は教材用なのですが、今回ご厚意でそのテープのダビングをご許可いただきました。

カイロ・アメリカン大学アラビア語インスティテュートのスタッフ、特にダビングに関して便宜を図って下さった El-Said Badawi 教授に再び厚く御礼申し上げます。

中野暁雄教授のマルタ語講読でチューター役をつとめ、またインフォーマントの Simon Bezzina さんをご紹介下さった藤原久仁子さん（お茶の水女子大学大学院博士課程）、アラビア語方言の演習でチューター役をつとめて下さった的場弘さん（当時東京外国語大学大学院修士課程）と中山霧衣夢さん（東京外国語大学大学院修士課程）にも御礼申し上げます。

最後の最後になりましたが、大学院生の共同利用室のマッキントッシュを占有していた筆者を寛容に許し、また励まし、そして精神的体力的その他各種援助を惜しまないでくれた、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の大学院博士課程の、尾沼君江さん、神谷俊郎さん、檜垣まりさん、米田信子さん、本当にどうもありがとうございました。

皆様からのご教授・ご指導にもかかわらず筆者が本論文中でおかした誤り等は、全て筆者自身の責であります。また先生方やインフォーマントの皆様からのご教示・ご助言を、本論文の中に生かしきることのできなかつた部分も多々ございます。この場をお借りしてお詫び申し上げます。今後、一層の努力を重ねていく所存です。

多くの方々に支えられ、この論文を書き上げることが出来ました。皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。